



NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第 27 号・2007 年 10 月発行

北加日本語教師会 2007年の秋の例会

Saturday, November 10, 2007

San Francisco State University



会長の挨拶

役割語と若者ことばから何かがわかる
南 雅彦

北加日本語教師会 (NCJTA) 会員の皆様は、夏休みをどのようにお過ごしになりましたか。日本に帰省されて、サンフランシスコでは見たことがないような新しいものに遭遇され、中にはとまどわれた方もいらっしゃると思います。私は、この夏はおもに読書をして、静かですが有益な時間を過しました。私はサンフランシスコ州立大学 (SFSU) の大学院で、認知意味論・語用論・言語地理学・方言地理学などの言語学諸分野と文化人類学や異文化心理学を含む『社会言語学セミナー』を担当し、また言語心理学・応用言語学・言語教育学などが中心の『第2言語習得セミナー』も教えておりますので、セミナーを興味深く継続させるため、社会言語学やそのほかの分野での新しい情報を入手してゆくことが不可欠です。たとえば、以下の左の (A) ~ (H) はどのような人が話しているのでしょうか、右の (ア) ~ (ク) と結びつけてみてください。

A	そうよ、あたしが知ってるわ	ア	お武家様
B	そうじゃ、わしが知っておる	イ	(ニセ) 中国人
C	そや、わてが知っとるでえ	ウ	老博士
D	そうじゃ、拙者が存じておる	エ	女の子
E	そうですねよ、わたくしが存じておりますわ	オ	田舎者
F	そうあるよ、わたし知ってるあるよ	カ	男の子
G	そうだよ、ぼくが知ってるのさ	キ	お嬢様
H	んだ、おら知ってるだ	ク	関西人

これは金水敏著の『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』(2003年 岩波書店) からまとめたものですが、過去10年あまり私もこうした事象を「役割固定語」と呼んで、大学院のセミナーで指導・説明してきました。でも、よく考えてみると不思議だと思いませんか? 実際には「一てあげてよ・一ですもの」としゃべる白鳥麗子(『新・白鳥麗子でございます』)やお蝶夫人(『エースをねらえ』)のようなお嬢様には、少なくとも私は(皆目とは言わずとも)ほとんど会ったことがありません(もしかしたら、お一人存じているような気がするのですが、その人の発話をトランスクリプトしたことがないので確信がありません)。また、「一あるよ」ときわめて単純化された言葉を操る中国人にもお目にかかったことはありませんし、新しい情報がすぐに手に入る現代の情報化社会で上記のような田舎者を見つけることができるとしたら、それは奇跡に近いでしょう。でも、こうした発話を見聞きすれば、その発話者が、誰なのか、どんな職業の人なのかなど、そのイメージが簡単にわいてくるのです。ここに現実世界とヴァーチャル世界のズレがあり、たとえば、お嬢様、中国語母語話者で日本語学習者、田舎者のステレオタイプがあるわけです。

では、次にあげた若者ことばの新しい動詞と形容詞が何を意味しているのか、答えてみてください: カフェる、こくる、コピる、じこる、スタバる、びよる、ビリる、マクる、モスる、うっとい、エロい、きしよい、きもい、グロい、けばい、むさい、めんどい。これらの造語は窪菌晴夫著『新語はこうして作られる』(2002年 岩波書店) から選んだものですが、日本語母語話者だったらたぶん大部分は推測できるでしょうし、たとえ完全にないにせよルールはまずまちがいはわかりませんね。これらは各語の最初の2モーラを残して動詞には「る」、形容詞には「い」を付けるのが基本ですね。若者ことばは創造的です。「スタバる(スターバックスにたむろする)」「セブる(セブンイレブンに行く)」「マクる

(マクドナルドに行く)」「たこる(たこ焼きを食べる)」など、何にでも(動詞を作る)接尾辞「-る」をつけて動詞にし、「キモい(気持ち悪い)」「クワイ(酷い)」「キショイ(気色悪い)」「ザツイ(雑だ)」「ビミョイ(微妙だ)」「グロイ(グロテスクだ)」「エロイ(エロティックだ)」など、名詞(もしくは名詞の最初の2モーラ)に形容詞の語尾「-い」をつけて形容詞にしてしまうのです。「キモかわいい」や「キモさわやか」は「気持ち悪い」と「かわいい」、「気持ち悪い」と「さわやか」の合成語ですが、「キモい」けれど「かわいい」、「キモい」けれど「さわやか」、しかも「キモい」より「かわいい」、「さわやか」のほうに重点が置かれています。「かわいい」や「さわやか」だけの人間は存在しないので、こうした表現は女性にとっては便利なほめ言葉です。だから、「キモかわいい」や「キモさわやか」ばかりでなく、「ハチュやさしい(爬虫類のようだけどやさしい)」、「ネチかわいい(ネチネチしているけれど、かわいい)」なども、ほめ言葉には違いないでしょう(私はあまりそう言いたいとは思いませんが)。同様に、オーストラリアの先住民である「アボリジニー(Aborigine)」をもじって「サボリジニー(サボってばかりの人)」、「アメリカン(American)」など英語の固有名詞から派生した形容詞をもじって「ジモトリアン(地元の人)」「メンドリアン(面倒くさがる人)」など、ごくわずかの語彙で、こうした表現を創出するのは、驚くべきことです。でも、こうした新語を日本語学習者に推測させてみても、たとえ造語のルールは把握できるようになったとしても、まず答えられないだろうと思います。興味があったら、学習者に尋ねてみてください。それはどうしてなのでしょう。これは役割語の場合も同様です。その理由を考えると、おもしろいのではないのでしょうか。また、日本語のバリエーションを言語行動、言語変異の視点から捉えることは、今後の日本語教育を考えるという方向性において意味があると思います。

さて、今秋も様々なイベントが目白押しです。まず、10月7日(日)には、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センターとの共催で、北カリフォルニア地区の小・中・高校、コミュニティーカレッジ、大学、日本語学園の日本語教師のための「AdvocacyとAPプログラム」に関するワークショップを開催します。特に高校レベルの先生方からはAPプログラムに関するワークショップを行なって欲しいとの要望があり、今回のワークショップでは、日本語教師の先生方が日頃から持っているようなそうした要望にお応えするという趣旨で、国際交流基金から渡邊眞紀さん、それからカリフォルニア州立大学モンレー・ベイの斉藤アボット佳子先生とNCJTA副会長でサクラメント州立大学の増山和恵先生(お二方ともAPプログラム試験作成委員)がお話されますので、是非とも皆様でご参加ください。

また、北加日米会(Japanese American Association of Northern California: 略称JAANC)及び在サンフランシスコ

日本国総領事館主催による第34回日本語弁論大会が、11月4日(日)に同総領事館広報文化センター(Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105)において開催されます。今年度からNCJTAも後援団体として参加する予定です。さらに、11月10日(土)にはForeign Language Association of Northern California(略称FLANC)がサンフランシスコ州立大学(SFSU)で開催されます。今回は、朝から各セッションすべてに日本語の発表が少なくとも1件以上入っておりますので、日本語関係の発表をご堪能いただけます。従来通り、NCJTA秋の例会はFLANCの午後のセッションの1つとして開催予定ですが、ネットワーキングの場としてご活用いただけるよう配慮いたしますので、どうぞご出席ください。最後に12月2日(日)は、習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験』がSFSUで実施されます。今秋も様々なイベントを通して、NCJTAのさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。どうかよろしくお願いたします。



2007年 春の例会報告:

春の例会の報告: 於サンフランシスコ州立大学
2007年5月6日(日) 1:00-3:00pm 出席者31名
連絡事項

1. 領事館より: 国費留学のお誘い(柏原幸代専門員並び高橋久子氏より)
2. 会費値上げの件決定: ニュースレターのコストは、今後はメール配信で不要になるが、非営利団体になる手続きの為の弁護士の費用が必要。
3. 非営利団体手続きの完了: NCJTA Inc.としての書類が到着。南-CEO、榊原-書記、斉藤-会計として登録されている。

発表:

「コンテキストを重視した実践的な教授法について」
1:30-3:00pm 木稲枝美子先生 マウンテンビュー高校
要約

学生が日本人のように話せる事、日本で話せるようになることは皆が合意する日本語教育のゴールのはずだが、実際には色々な状況がある。最終的には、直面している場面(situation)でどんな時にどんな事をいえばよいか、というセンスを養えば、与えられた場面でちゃんと機能できるようになる。その際に、基本はクラスで教えて、後は日本へ行けばなんとかなる、という考え方よりも、日本で遭遇する日本語をクラスで教えなければならないのではないのか。

また言葉と文化は分けられないので、教える内容は、文化的にも現実に使用されている(authentic)ような日本語が好ましいが、その「文化」には、日本人でも勉強して身につけるものと、日本人なら誰でも自然に身につけているものの二種類がある。後者は、行動パターン、

物の考え方、感じ方、価値観などで、それをクラスで教える事は重要だろう。

上記の内容を教えるには、自然なコンテキスト (context) を作って、学生に発話させるようにするとよい。正しい文章を全部言わせて、かえって不自然な日本語を言わせていないか、また教科書的な日本語を言わせてはいないかよく吟味する。

(例えば「この部屋に何がありますか。」という質問は実際には使わない。) それには、まず会話練習をした後で、それをコンテキストの中で使わなくては行けない状況を設定し、自分で何を言うべきかを考えて言わせる。

(例えば、教師がたばこをすいそうなふりをすると、学生が「ここでたばこをすっちゃいけません。」と自然に言える。) この方法では、教師はコーチ、モデル、会話の相手役、という三つの役割があるので、学生から質問を受ける機会も多い。借りたペンを違う人に返したりする「おとぼけ」の状況設定も有効。学生が30人いれば、30人の口が動かなくても、1人の代表者と共に30の脳が動いていればよいと考えればよい。

日本語教育には完璧な教科書も先生もないので、教師にはこのようにコンテキストを上手に設定していく責任がある。また、前の事を忘れさせないように、いつも少し戻りながら学習するという looping をしていくのも大切だろう。

木稲先生のお話の後、活発な質疑応答がありました。いくつかの大学で助教授として教鞭を取られ、オハイオ州立大学、コーネル大学など様々な大学の日本語教師養成プログラムでも教えていらっしゃるご経験や趣味のエアロビクス講師としてのご経験もおありの木稲先生の生き生きとしたご発表に一同時間がたつのを忘れました。ありがとうございました。(榊原記)

2007年 秋の役員会報告

NCJTA役員会議事録 8/27/07

出席者：南、斉藤、高坂、森岡、郷司、モールス、島邊、シアーズ、神原、高橋、榊原

1. 領事館の方で領事館主催の勉強会を年に2回主催する意向あり。話し合いの結果、春、秋の年2回、(秋は弁論大会との日程的な距離をおいて) CAJLT (California Association of Japanese Language Teachers) の会員と共通のテーマで先生同士の広い交流の場として歓迎。今秋10/7/07に予定されている会(テーマはAPプログラムと日本語のAdvocacy)はこのまま開催し、将来的にはNCJTAとCAJLTの共催という事にしてはどうか。また、それによって秋のFLANCの出席者率も懸念されるが、特に高校レベルまでは日本語の分野が他の言語と関連を持っていく場としてFLANCは大切なので、FLANCとの関係を外へ向かって発信していく場として今後も重視する必要がある。今秋のFLANC: 発表者の時間帯について南先生の方へFLANCより連絡があり、当初決定されていた発表順序でなくなっていたが、話し合いの結果、元通りにしてもらおう事に決定。
2. 秋の例会について：11月10日3時5分から4時まで

3. テーマ「授業初日のActivity — Ice Breaking の方法」水、おかき、クッキーなどの準備を役員で分担。
3. ニュースレター: 各コラムの担当者を決定。9/25火曜日までに原稿送付の事(編集担当高坂 skosaka@berkeley.edu) 校正担当神原。10/6土曜日に全会員にメール添付で配信、発行する。郵送はしない。
4. Web Page: 役員の顔写真を入れる。(担当今瀬) FLANCニュースレター：日本語欄の記事を各学校で持ち回りで担当していく事を考える。今回は、スピーチコンテストの1位、2位に書いてもらう。
5. 来春のSF州大での国際言語学会：3月にある可能性が高い。NCJTA春の例会とのジョイントに由来してきたが、今後NJCTAから学会への寄付は、NCJTAへの外部団体からの寄付などでまかなえるとよいので、その方向を探る。



言葉の窓 第九回

『借りてきた猫』

武田知子
サンフランシスコ州立大学

今学期教えている日本語のクラスのひとつで最初に読んだ読み物には「猫」を使った日本語の言い回しがいくつも出てきた。日本語には生活に関わりの深い犬や猫などの動物や体の部位を使った言い回しが多いと言われていたが、学生にも自分の母国語にある動物を使った言い回しについて尋ねてみた。文化による違いはもちろんあったが、特定の動物に対して共通するイメージ、たとえば狐は狡賢いイメージなどもありなかなか面白かった。英語の表現では‘cat’s pajamas’というのが面白かったが皆さんはご存知だろうか。(注：「感激するほど素晴らしいもの(人)」という意味で、例えば新しく買ったばかりのコンピューターについて“My new computer is the cat’s pajamas!” というように使うそうだ。)

さて「猫」を使った言い回しについての読み物を終えた次の回の授業でのこと。学生の一人が「この前日本人と話しているときに『猫の額』という表現を使ったら全然分かりませんでした。」と言ってきた。どうやら日本人の学部生のことらしい。数人の日本人の大学職員にこの話をしてみると私同様驚いていた。そこで個人的興味も手伝って日本人学生に簡単なアンケートをしてみた。今のところ8人にしか回答をもらっていないので統計学的にはあまりあてにならないという前提で結果を発表すると：

- 「猫の額ほどの庭」：意味を知っている5人(うち1人だけが「使ったことがある」)、意味を知らない3

人

- 「猫の手も借りたい」：意味を知っている7人（うち5人が「使ったことがある」）、意味を知らない1人
- 「猫に小判」：意味を知っている7人（7人全員が「使ったことがある」）、意味を知らない1人
- 「借りてきた猫」：意味を知っている3人（うち1人だけが「使ったことがある」）、意味を知らない5人

という結果になった。ちなみにアンケートに答えてくれた学生の一人は「猫に小判」以外の表現は「意味も知らないし見たことも聞いたこともない」と答えている。この結果をどう受け止めるかは人それぞれだが、困るのは日本語を勉強している学生が日本人学生から聞いてきたことをそのまま信じてしまうことがあることだ。前述の学生はただ純粋にクラスで勉強した表現が日本人学生に通じなくて困惑していただけだが、なかには「先生、日本人の友達は〇〇とは言わないと言っていました」と言ってくる学生もいる。学生達が日本人学生と使っている日本語とからめて書き言葉と話し言葉、丁寧さや相手との関係などと言葉とのかかわりなどをクラスで説明する必要性を改めて感じた出来事だった。



お知らせ

ワークショップ・イベントのおしらせ

- 北加地区日本語教師のためのセミナー・ワークショップ
 - 講演者：渡邊眞紀女史（国際交流基金アカデミック・スペシャリスト）、斉藤アボット佳子教授（カリフォルニア州立大学モンテレー・ベイ：APプログラム試験作成委員・カレッジボードアドバイザー）、増山和恵教授（サクラメント州立大学：APプログラム試験作成委員：NCJTA 副会長）
 - 演題：Advocacy と AP プログラム
 - 日時：10月7日（日）
 - ◇ 午前 10:15～ 受け付け
 - ◇ 10:30～12:30 “Advocacy”:日本語教育普及強化方法について
 - ◇ 午後 12:30～1:15 昼食（各自ご持参下さい）
 - ◇ 1:15～3:15 AP Japanese Program
 - 場所：在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター
 - ◇ 50 Fremont Street, Suite 2200 (22 F) San Francisco, CA 94105
 - ◇ サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センターへのアクセス http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/en/e_m01_05.htm

- 北カリフォルニア地区の小・中・高校、コミュニティカレッジ、大学、日本語学園の日本語教師のための「Advocacy と AP プログラム」に関するワークショップを開催します。特に高校レベルの先生方からは AP プログラムに関するワークショップを行なって欲しいとの要望が以前からあります。先生方が日頃から持っていたらっしゃるそうした要望にお応えするため、今回のワークショップでは、「政治的、財政的な観点からの日本語教育強化について」及び「第1回AP日本語プログラム終了後の課題」の2点に焦点をあて、渡邊眞紀女史、斉藤アボット佳子教授及び増山和恵教授にお話しを伺います。是非ともご参加ください。

- Foreign Language Association of Northern California (FLANC)
 - 日時：11月10日（土）
 - 場所：サンフランシスコ州立大学 College of Humanities
 - Foreign Language Association of Northern California（略称 FLANC）がサンフランシスコ州立大学（SFSU）で開催されます。今回は、以下（別紙参照）のように朝から各セッションすべてに日本語の発表が少なくとも1件以上入っていますので、日本語関係の発表をご堪能ください。また、午後の北加日本語教師会・秋の例会ではネットワーキングを中心に開催いたしますので、ぜひご参加ください。

第34回日本語弁論大会のお知らせ

北加日米会（Japanese American Association of Northern California：略称 JAANC）及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第34回日本語弁論大会が、11月4日（日）に同総領事館広報文化センター（Japan Information Center, Consulate General of Japan, 50 Fremont Street, Suite 2200, San Francisco, CA 94105）において開催されます。今年も昨年同様、午前は中高校生の弁論大会、午後は大学・成人の弁論大会を開催する予定です。

大学・成人弁論大会の参加・出場資格は、①18歳以上の米国市民権及び永住権保持者で、②6歳以後、2年以上日本に継続滞在経験のない方が対象です。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。1位から5位の入賞者には賞金、及び上位3位入賞者にはトロフィーが授与されます。また、参加者の中から抽選で1名に日本航空より日本往復切符が授与されます。大学・成人部の参加・出場申込書ご希望の方は、北加日米会事務所 ☎(415) 921-1782 ファックス (415) 931-1826、佐藤マサカズさん ☎(925) 876-9543 566-3792、または安田健彦さん ☎(415) 637-1113 までご連絡ください。

中高生の参加資格は、6歳以後、1年以上日本に継続滞在経験のない人が対象です。入賞者には、賞状及び賞品が授与されます。なお、過去に1等賞に入賞した方には出場資格がありません。日本語を日常話している家庭からの参加者とそれ以外の参加者の2グループに分け、それぞれのグループでコンテストを行う予定です。大会では各学校の推薦（学校の推薦枠は代表1名、補欠候補1名）による参加申し込みを受け付けます。中高生参加・出場申込書ご希望の方は、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター高橋さんにご連絡ください☎(415) 356-2461, education@cgsjf.org（中高生出場申込書は同センターで受け付けます。）

大学・成人及び中高生参加者の申し込み締め切り日は共に10月12日（金）午後5時必着です。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語弁論大会に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。

（文責：南 雅彦）

日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）のお知らせ

国際交流基金（Japan Foundation）では、日本語学習者を対象に日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）を1984年より日本国内だけでなく国外においても実施してきました。日本語能力試験は、習得した日本語の能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度です。西海岸では以前はロサンゼルスのみで日本語能力試験を受験しなければなりませんでした。4年前からサンフランシスコ・ベイエリアでも受験できるようになりました。ベイエリアでは、12月2日（日）にサンフランシスコ州立大学（SFSU）で今年度も引き続き日本語能力試験が実施されます。試験は、いちばん難易度の高いレベル1からいちばん難易度の低いレベル4まで4つのレベルに別れていますので、自分の能力に適したレベルを受験することができます。各レベルとも、「文字・語彙」「聴解」「読解・文法」の3つのセクションから成り立っています。受験費用はレベル1と2が50ドル、レベル3と4が40ドルとなっています。受験手続は、オンラインでも、郵送でも可能ですが、郵送の場合は所定の願書に必要事項を記入し、ロサンゼルス Japan Foundation, Language Centerまで申し込んでください。なお、オンラインでも郵送でも詳細は <http://www.jflalc.org/?act=tpt&id=23> をごらんいただくか、電話（213）621-2267（月-金9:30-5:30）、もしくはE-mail: noryoku@jflalc.org までご連絡ください。受験願書の受付は10月5日までとなっています。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語能力試験に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。



先生の紹介欄

森岡妙子先生の紹介

1) お名前を教えてください。

森岡妙子です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

サンフランシスコにある公立の小学校で「Rosa Parks JBBP Elementary School」です。

3) 日本語教師はいつから？

今年度で25年目になります。

4) ご趣味は？

読書

5) 日本の出身地は？

生まれ育ったところは東京です。神奈川県にも2~3年住んでいました。

6) アメリカに来てから何年ですか？

最初に来たのは1969年ですが、その後、行ったり来たりしましたので約34年です。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

自分が教えた子ども達が成長し、日本語を勉強し続けるのをみたりすると、小学生に日本語と日本の文化を教えていてよかったと感じます。子どもの頃から日本語を習うと自然なイントネーションが身につく、自然な日本語になります。アメリカの子どもが、日本語を通し国際的な人に成長する手助けができると信じています。子どもたちから学ぶものがたくさんあります。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

会に参加するたびに習うことがいろいろあります。これからも、日本語教育に協力していきたいと考えていますのでよろしくをお願いします。

郷司裕先生の紹介

1) お名前を教えてください。

郷司裕です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

サンフランシスコ市立クラレンドン小学校で日本語プログラムコーディネーターをしています。

3) 日本語教師はいつから？

2000年の9月からです。

4) ご趣味は？

バスケットボールです。

5) 日本の出身地は？

大分県の国東市です。

(平成の大合併で市になりましたが、僕が育った時は東国東郡でした。)

6) アメリカに来てから何年ですか?

1998年の8月にサンフランシスコに来たので、もう9年になりますね。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

初等教育機関での日本語教育は、少なくともサンフランシスコでは、まだまだ他の言語、あるいは高校・大学など日本語教育に比べて注目度が低いのが現状です。そんな中で、なるべく多くの児童に日本語の楽しさを知ってもらい、近い将来その子達が「小学校で日本語を習ってよかった」と伝えていってくれると信じながら学校一丸となって頑張っています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

この教師会に入ってまだ間もなく、教師としての経験も浅いですが、みなさんとの触れ合いを通して、たくさんの事を学べる事を楽しんでいます。

高坂聖子先生の紹介

1) お名前を教えてください。

高坂聖子です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

カリフォルニア大学パークレー校と桑港学園で教えています。

3) 日本語教師はいつから?

台湾で教えたのが初めてで、1999年からです。

4) ご趣味は?

テニス、旅行、映画鑑賞、エクササイズ(エアロビクス等)、おいしいレストランを探すこと等です。

5) 日本の出身地は?

生まれたのは兵庫県姫路市で、育ったのは茨城県日立市です。

6) アメリカに来てから何年ですか?

2001年の7月に来たので、6年ですね。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

10年以上前にボランティアで日本語を教え始めたのがきっかけで、日本語教育に興味を持つようになったのですが、その時の初心を忘れずに、楽しくやっていきたいと思っております。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

ベテランの先生方から最近教え始めた方まで、色々な方がいらっしやると思うのですが、みなさんから色々とお話を聞きたいと思っています。

編集後記

新学期が始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今回のニュースレターには新メンバーも加わり、より一層、日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様のご意見、ご投稿をスタッフ一同心からお待ちしております。

ります。どうかお気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南、高坂、今瀬までお送りください。

南: mminami@sfsu.edu

高坂: skosaka@berkeley.edu

今瀬: hiroimase@yahoo.co.jp



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>

NCJTA. c/o Masahiko Minami

Department of Foreign Languages

サンフランシスコ州立大学

San Francisco State University

1600 Holloway Avenue

San Francisco, CA 94132

(415) 338-7451

<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO: Masahiko Minami 南雅彦
(同上)

副会長: Kazue Masuyama 増山和恵
University of California, Sacramento
E-mail: masuyama@saclink.csus.edu

書記: Haruko Sakakibara 榊原晴子
University of California, Davis
E-mail: hosakakibara@ucdavis.edu

会計: Mayumi Saito 斎藤真由美
2105 Saratoga Place, Davis, CA 95616
E-mail: msaito@ucdavis.edu

ニュースレター編集委員:
Seiko Kosaka 高坂聖子
University of California, Berkeley
E-mail: skosaka@berkeley.edu

<各レベル代表>

小学校:

Taeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: Taeko3568@aol.com

Yu Goji 郷司裕
Clarendon Elementary School
E-mail: taizoji@hotmail.com

中学校 :

Hiroshi Imase 今瀬博

Odyssey School

E-mail: hiroimase@yahoo.co.jp

高校代表/フランク連絡員兼任 :

Atsuko Morse モールス厚子

The College Preparatory School

E-mail: ahmorse@aol.com

学園代表 :

Mikiko Shimabe 島邊美紀子

San Jose Betsuin Lang. School

E-mail: mikishimabe@hotmail.com

コミュニティーカレッジ代表 :

Tazumi Searce シアース多都美

469 Tovar Drive, San Jose, CA 95123

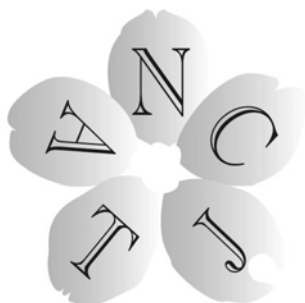
E-mail: tazumi@comcast.net

大学代表 :

Wakae Kambara 神原若枝

University of California, Berkeley

E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association

Foreign Language Association of Northern California (FLANC)

- 日時：11月10日（土）
- 場所：サンフランシスコ州立大学 College of Humanities

セッション	発表トピック	発表者と所属
Session 1 9:00 a.m. ~ 9:45 a.m.	Computer-Assisted Language Learning (CALL) Programs for Teaching Japanese	Masahiko Minami (SFSU), Yufuko Kurioka (Soko Gakuen, Institute of Buddhist Studies), Shiori Hoke (CSU East Bay, Soko Gakuen), Shiho Nishida (Soko Gakuen)
Session 2 10:30 a.m. ~ 11:15 a.m.	Japanese Songs for Teaching	Junko Hosoi (Aragon High School)
	Using Manga Characters for Teaching Giving and Receiving Relationships in Japanese	Tazumi Otsuka Scearce (De Anza College & Mission College)
Session 3 1:15 p.m. ~ 2:00 p.m.	How to Best Handle Back-to-School-Day	Atsuko Morse (College Preparatory School), Kumiko Sakamoto (Menlo School), Naomi Okada (Lowell High School)
Session 4 2:15 p.m. ~ 3:00 p.m.	After the 1st Japanese AP Test: Observation and Feedback from the AP Committee	Yoshiko Saito-Abbott (CSU Monterey Bay)
NCJTA Fall Meeting 3:10 p.m. ~ 3:55 p.m.	Activities for Networking	